

## 2. 市民等の移動実態及びニーズ把握

### 2-1 市民アンケート調査（概要）

#### 2-1-1 調査目的・調査概要

##### (1) 調査目的

バスサービス改善のための基礎データとして、市民のバス利用の実態や、公共交通に関する取組の優先度を、年齢層別に把握することを目的として、市民アンケート調査を実施した。

##### (2) 調査概要

市民アンケートの調査概要は以下の通りである。

表 2-1 調査概要

調査期間	平成 29 年 7 月 27 日（木）～平成 29 年 8 月 10 日（木）
調査対象者	15 歳以上の市内居住者（住民基本台帳から抽出）
配布数	15～64 歳：1,600 人 65 歳以上：1,100 人
回収数 （8 月 28 日時点）	15～64 歳：416 人（回収率 26.0%） 65 歳以上：435 人（回収率 39.5%） 年齢無回答：13 人 合計：864 人（回収率 32.0%）
調査方法	郵送配布・郵送回収
調査内容	個人属性、路線バス利用実態、公共交通に関する取組の優先度、自由回答

郵便はがき

3 7 1 8 7 9 0

料金受取人払郵便

前橋中央局  
承認  
0000

差出有効期間  
平成29年12月  
15日まで  
(切手不要)

前橋市大手町二丁目12番1号

前橋市 政策部 交通政策課 行



問1. あなたご自身のことについてお答えください。

性別	①男性 ②女性	年齢	( )歳
職業	①会社員 ②公務員 ③団体職員 ④自営業 ⑤主婦・主夫 ⑥学生・生徒 ⑦無職 ⑧その他		
住所 (町名まで)	前橋市( )町		
通勤・ 通学先	①市内:前橋市( )町 ②市外:( )都・道 ( )市・区 ③なし		
世帯の 人数	14歳以下( )人	15歳~64歳( )人	65歳以上( )人 ※回答者ご本人を含む
自動車 運転免許	①有り ②無し	世帯の 自動車台数	( )台

裏面もお答えください。

図 2-1 調査票 (表)

問2. 前橋市の路線バスのご利用についてお答えください。

前橋市の路線バスを利用する頻度	①ほぼ毎日 ②週4～5回 ③週2～3回 ④週1回 ⑤月1～2回 ⑥数ヶ月に1回 ⑦雨の日だけ ⑧全く利用しない
主な利用目的	①通勤 ②通学 ③趣味・娯楽・社交 ④買物 ⑤通院 ⑥その他( )

問3. 以下の①～⑬の各取組についてそれぞれ当てはまるものを1つずつ選んでください。

※「取組内容」は依頼状をご参照ください。

	高	←	優先度	→	低
取組①	①	②	③	④	⑤
取組②	①	②	③	④	⑤
取組③	①	②	③	④	⑤
取組④	①	②	③	④	⑤
取組⑤	①	②	③	④	⑤
取組⑥	①	②	③	④	⑤
取組⑦	①	②	③	④	⑤
取組⑧	①	②	③	④	⑤
取組⑨	①	②	③	④	⑤
取組⑩	①	②	③	④	⑤
取組⑪	①	②	③	④	⑤
取組⑫	①	②	③	④	⑤
取組⑬	①	②	③	④	⑤

問4. 上記以外で実施すべき取組についてご意見をご記入ください。

図 2-2 調査票（裏）

# 公共交通に関する取組案

～問3をご回答の際にご参照ください～

柳井市の公共交通に関する取組について、市民の皆様のご意見をお聞かせください。  
※ご意見は、ハガキにてご回答ください。

## 取組① 軸となるバス路線の明確化

駅や市内の主要な施設を結ぶ「軸」となるバス路線を設定し、高頻度にバスが運行するようにします。  
「軸」から延びる「枝」となるバス路線は、利用者に応じて運行本数や車両の大きさの見直しを行い、効率のいい運行を目指します。

## 取組② 公共交通の利用が不便な地域の解消

駅やバス停が遠く、公共交通の利用が不便な地域において、住民主体のデマンドバス等の導入の支援などを実施します。乗り換え地点を整備することによって、路線バスとの連携を強化していきます。  
※ 中核型のバス運行サービス

## 取組③ 駅や主要バス停の乗り換えを円滑に

駅や利用者の多いバス停で交通機関を乗り換える際に、円滑に乗り換えができるようにします。  
路線バスのダイヤを見直し、鉄道とバスの連携を強化します。  
乗り換えが容易になるように、乗換情報を提供したり、自転車駐輪場の整備を実施します。

## 取組④ バリアフリー化

高齢者や障害者、子どもなどが乗り降りのしやすいバスの導入を推進します。  
駅やバス停のバリアフリー化を進めます。

## 取組⑤ バス待ち環境を快適に

同じ名前にも関わらず、副都立地するバス停留所を一部所に集めて分かりやすくします。  
バス停に屋根やベンチなどを取り付けて、バス待ち環境を改善します。  
公共施設や商業施設でバスの運行情報を提供するなど、より充実した情報提供を行います。

## 取組⑥ 情報案内を分かりやすく

バス停でバスの行先、経由地が一目で分かるようにします。  
バスの現在位置の最新情報をバス利用者に伝えています。

## 取組⑦ サイクルトレイン<sup>®</sup>の推進

上毛電鉄が実施しているサイクルトレインを周知、推進します。  
※ 電車内に自転車に乗せられるサービス

問3. これらの公共交通に関する取組について、柳井市で実施することの優先度について、あなたご自身の考えが表えてください。各取組について、優先度を5段階の中から1つお選びください。回答は、はがき裏面の「問3」の該当する番号に○をおつけください。

### 回答例 ④ハガキ裏面

取組番号は、この用紙の取組番号と一致です。  
取組①は「軸」となるバス路線の明確化」となります。

高	←	優先度	→	低		
		1	2	3	4	5

取組①

1のほうの優先度が高くなり、5のほうは後回しでよいとなります。  
平先して取り扱ってほしいと思う場合は、1に○をお付けください。

## 取組⑧ 交通系ICカードの導入

市内の路線バスおよびコミュニティバス等の運賃の支払い時に利用できる、交通系ICカードの導入を進めます。

## 取組⑨ 都心のバス路線の利便性向上

市の中心部の主要施設を結ぶバス路線を設定し、中心市街地の回遊性向上と活性化を図ります。  
まちなかでは、運賃を一定にし、バスを気軽に利用できるようにします。

## 取組⑩ コミュニティサイクル<sup>®</sup>の導入

コミュニティサイクルを市の中心部で利用できるようにすることで、需要やバスでまちなかに出向いても無理なく移動できるようにします。  
※ 専用の車、元の場所ではなく、行った先で返却できる自転車の貸出サービス

## 取組⑪ 歩行・自転車利用環境の改善

市の中心部において、自転車通行空間の整備、快適な自転車通行環境を構築し、歩行者の安全性向上を図ります。  
本町二丁目五差路交差点の改良により、円滑な移動を可能とし、周辺地域の一体性の向上を図ります。

## 取組⑫ パーク＆ライドの推進

市の中心部での渋滞を減らすために、郊外の駅やバス停で車から電車やバスに乗り換えるようにパーク＆ライド施設を実施します。

## 取組⑬ 自動車による来訪、通過交通の抑制

市内中心部の商業エリアにおいて、快適な歩行環境・にぎわい空間創出を図るため、自動車による来訪や通過交通の抑制を行います。

図 2-3 取組の内容（依頼文裏面）

## 2-1-2 市民アンケートの結果

### (1) 回答者の属性

- 回答者の属性は、女性が56%、男性が44%で、64歳以下が48%、65歳以上が50%となっている。職業は主に、主婦・主夫（24%）、無職（23%）、会社員（22%）である。

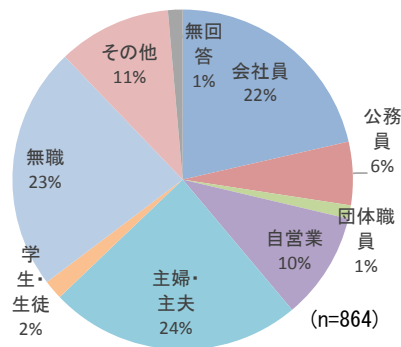


図 2-4 回答者の職業構成

### (2) バスの利用状況

- バス利用者は、女性・65歳以上が比較的多いが、65歳以上も含めて多くの方がバスを利用していない。

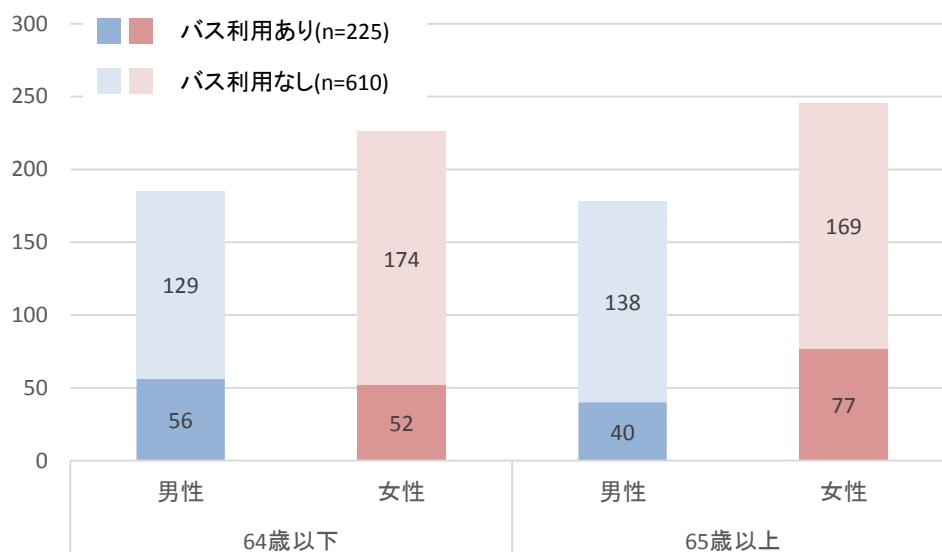
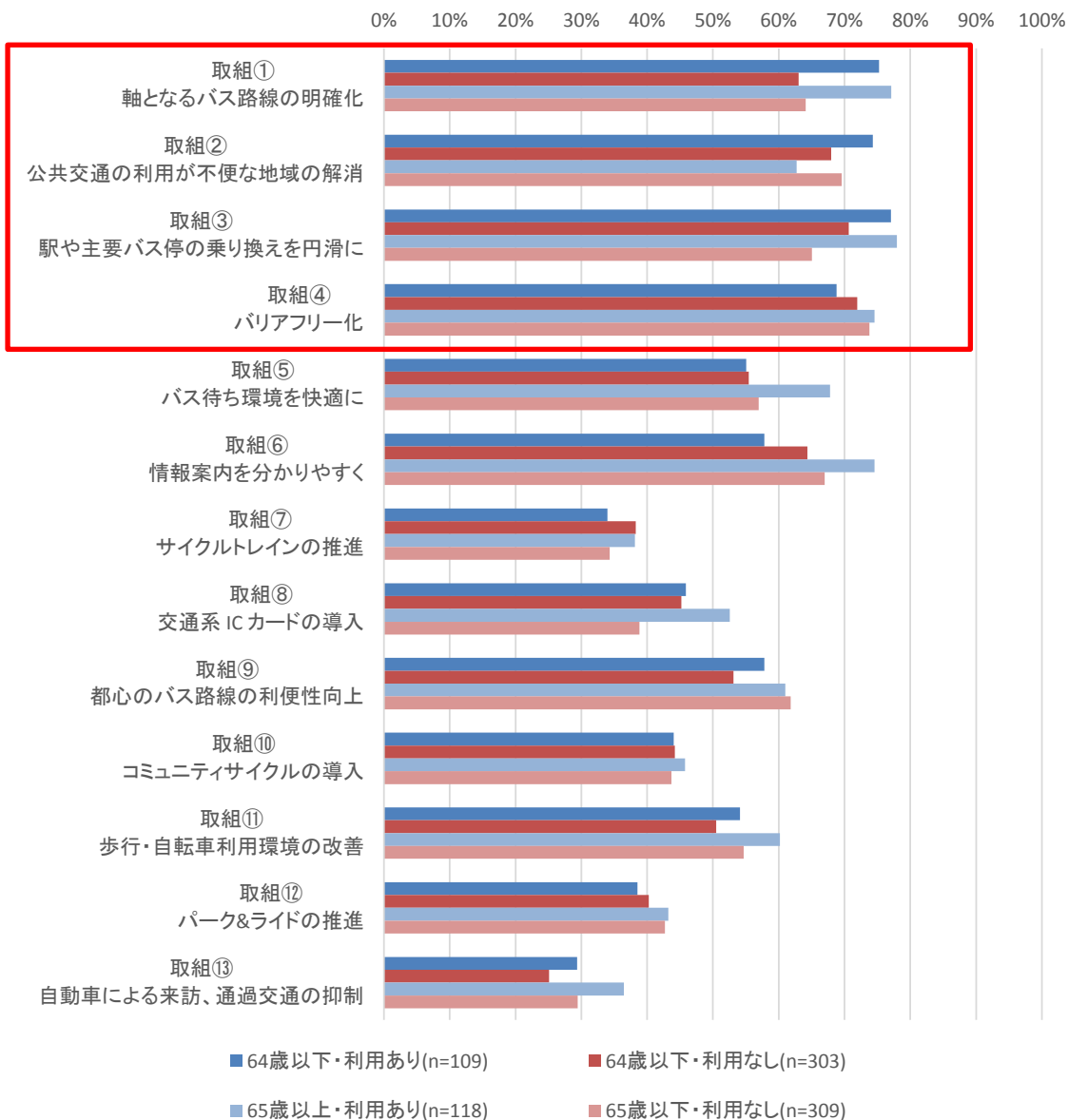


図 2-5 性別・年齢別のバス利用状況

### (3) 公共交通に関する取組の優先度

- 公共交通に関する取組で、年齢、バスの利用の有無を問わず全ての層から優先して実施すべきと考えられている施策は、「取組①：軸となるバス路線の明確化」「取組②：公共交通の利用が不便な地域の解消」「取組③：駅や主要バス停の乗り換えを円滑に」「取組④：バリアフリー化」である。



※数値は優先度「1」と優先度「2」の回答率の合計

図 2-6 公共交通に関する取組の優先度（年齢層別・バス利用有無別の比較）

---

#### (4) 市民アンケート結果まとめ

- 公共交通に関する取組で、年齢、バスの利用の有無を問わず全ての層から優先して実施すべきと考えられている施策は、「取組①：軸となるバス路線の明確化」「取組②：公共交通の利用が不便な地域の解消」「取組③：駅や主要バス停の乗り換えを円滑に」「取組④：バリアフリー化」である。

⇒市民の意識として、幹線バス路線の明確化、公共交通不便地域の解消、鉄道駅や主要バス停における結節強化、バリアフリー化の 4 つの施策は優先して進めるべきだと考えられており、これらの施策を重点的に進めることが期待されている。